The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

October ISSUE

October, 2022
Volume 127

平和によせて ～私たちにできること～

秋学期が始まりました。少し日に焼けた子どもたちの明るい顔を見て、「しっかり休息できたみたいだな。充実した夏休みだったんだろうな。」と感じるとともに、たくさんの元気をもらいました。やはり、子どもたちあっての学校です。

子どもたちに夏休みの様子を聞いてみると「おじいちゃんおばあちゃんに会ってきたよ。」「今年はコロナで遠出はしなかったよ。」「宿題が大変だった！」等と様々な声が聞こえてきました。

私も、今年はコロナの第 7 波と重なったため、お盆休みは自宅で過ごしました。終戦記念日と近かったこともあり、戦争に関連する様々なドキュメンタリー番組が放送されていたので、それらを数多く視聴しました。

太平洋戦争、第二次世界大戦が主でしたが、兵隊として戦争に駆り出された方々の証言には衝撃を受けました。私が小学生のころは、夏休み中の 8 月 6 日はいつも登校日になっており、広島に落とされた原子爆弾や沖縄戦など、戦争に係る講話を聞いたり映画を見たりしていたこと、また父方の叔父が兵隊として 8 月 7 日に広島入りし、原爆手帳を持っていたことなどから、私自身、戦争について少しは知っていると思っていましたが、改めて生の声でお一人お一人の体験を聞くと、私の知っていることはほんの 1 部で、「本当に大変な思いをされ、辛かっただろうなあ。」と涙の出る思いがいたしました。

広島に原爆が落とされた日に、学徒動員でたくさんの中学 1 年生が動員され、その多くが亡くなってしまったことも知りました。8 月 6 日の朝「お母さん、今日はおなかが痛いから休みたい。」と訴えた子どもに、「何言ってるの。兵隊さんも頑張っているんだから、あんたも行ってきなさい。」と叱って送り出したお母さんのお話には、心がえぐられました。

結局何のための戦争だったのか。大人のエゴでしかなかったのではないか。番組を見ながら、様々な思いがよぎり、考えました。

現在、ロシアのウクライナ侵攻で、第 3 次世界大戦が危惧されている中、戦争は過去に終わったものではないことを改めて感じます。この戦争が地理的に遠い国で起こっていることは事実ではありますが、グローバル化されている今、私たちの生活にも大きく影響しておりますし、戦争は決して他人事ではありません。

私は周りにいる人たちを大切にしているだろうか。言葉でしっかりとコミュニケーションをとる努力をしているだろうか。自分本位で物事を見ていないだろうか。自分を振り返る時間となりました。

DIA の Learning Community として、子どもたちやおうちの皆さんも、「平和」のために自分たちにできることを考えていただけると幸いです。

自分自身を大事にすることは大切ですが、「あれが欲しい。」「これが欲しい。」「自分が良ければいい。」「自分の考えが正しい（あなたが間違っている）。」そんなエゴが戦争につながるのではないかと思います。みんなで「平和」へのアクションを行う秋学期にしたいと存じます。

副校長　ロハス　亜紀

キリスト教 教育テーマ
10 月：誠実　October: Honesty

「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物など食べたことはありません。
「神が清めた物を、清くないなどと言ってはならない。」

使徒言行録 10 章 14、15 節（聖書協会共同訳）

秋学期が始まる少し前、京都府私立小学校連合会の夏期合同研修会があり、何人かの先生方と参加してきました。最初は全体会で講師の講演を聴くのですが、その日初めて「星野ルネ」氏の存在を知りました。

ルネさんはカメルーン生まれの漫画家兼タレントです。ルネさんが 4 歳の時、お母さんは研究でアフリカに来ていた日本人男性（ルネさんのお義父（よう）さん）と結婚しました。それに伴ってルネさんも来日し、以来、日本の兵庫県で育たれたそうです。漫画家としてのデビュー作は「まんがアフリカ少年が日本で育った結果」（毎日新聞社版）で、この本に関する講演の内容があまりに面白く、帰宅後私は早速前編・後編 2 冊とも注文し、手に届き次第、一気に読み終えました。

ルネさんの著書はエッセイ漫画の手法で視覚的にわかりやすい上、社会的な問題もユーモアを交えてさり気なく提起してくれているので、学ぶべきことがたくさんあります。中でも特に私の印象に残っているのは、日本とカメルーンの間の「ご馳走」の違いについて書かれた項でした。

ルネさんが日本でお母さんと一緒にアフリカの動物が登場するドキュメンタリー番組を観ていると、いつしか「グルメ番組」のような会話になっていくといいます。つまりカメルーン育ちのお母さんにとって、ニシキヘビは「あ！お母さん、この前あれ食べたよ。」ワニは「あれは最近食べてないな～。」ということになるのだそうです。大多数の日本育ちの人間にとって、これらの動物はあくまでも観賞用で、食欲の対象ではありません。しかしながら、ほぼアフリカ全土の動物が生息するカメルーンでは、野生動物はあくまでも「狩って食するもの」なのです。信じ難いようですが、そういえば私も以前、とある水族館でサバの大群が泳いでいる水槽の前に立った時、思わず「美味しそう！」と呟いてしまったことがあります。故郷が海から遠く、魚など殆んど見ないで育った人なら、そうはならないでしょう。

上掲の聖書箇所は、キリスト十二弟子の一人ペトロが神に見せられた幻について、「天からの声」とやり取りしている場面です。ユダヤ人には古来、厳しい食物規定があり、食べていい動物といけない動物に分かれていました（旧約聖書レビ記 11 章参照）。それなのに、ペトロが見た幻ではユダヤ人が「汚れた物」として避けてきた動物ばかりたくさん入った大きな入れ物が天から吊るされ、これらの動物を食べるようにと「声」に命じられるのです。驚いたペトロは「とんでもない！」と拒絶しますが、「声」は「神が清めた物を、清くないなどと言ってはならない。」と答え、このようなやり取りが三度あった後で、突如この幻は消えました。ペトロが今見た幻の意味を考え込んでいた時、コルネリウスという名のローマ人が神の教えを聞きたいと、ペトロのところへ使者を遣わしてきました。この時初めてペトロは、神が幻を通して自分に告げ知らせてくださった真実を知るのです。彼はコルネリウスの家に到着した時に言いました。「ご承知の通り、ユダヤ人が外国人と交際したり、訪問したりすることは、許されていません。けれども、神は私に、どんな人をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、お示しになりました。それで、お招きを受けた時、ためらわずに来たのです。」

狭い一民族のための宗教と思われていた、古代ヘブライ人から伝承された教えが、世界宗教へと歩み出した瞬間でした。

Christian Education Committee　チャプレン　石川眞弓

＜お知らせ＞

・10 月のおにぎり献金は、10 月 11 日（火）です。
　※感染症予防のため、献金は袋に入れてお子様にお持たせください。
　ご協力をよろしくお願い致します。

G6 修学旅行
～SDGs について考える旅～

G6 は、9 月 27 日(火)から 30 日(金)まで、広島と熊本に修学旅行に行きました。コロナ禍ということもあり、行けるか不安でしたが、無事に行くことができ、ほっとしております。子ども達にとっても久々の宿泊学習でしたので、楽しい３日４泊になったようです。途中、疲れを見せる時もありましたが、最後まで笑顔が多く、実りある宿泊学習となりました。

今回の修学旅行の主なねらいは、楽しい思い出を作ることはもちろんのこと、Unit 3 で学んだ SDGs に関連する学習をすることを重要視した内容でした。

まず広島では、平和学習の一環として、平和記念公園を訪れました。初めて平和記念公園を訪れる子ども達も多く、実際に見る「原爆ドーム」に衝撃を受けたようです。

また、「広島平和記念資料館」内部では、修学旅行の事前学習で、『月の光』の川添さんに『まっ黒なおべんとう』を読み聞かせ頂いていたこともあり、展示されていた「茂くんの弁当」に子ども達は釘付けでした。「想像以上にしんどかった。」という感想もあり、原爆の恐ろしさ、戦争の恐ろしさを改めて考えさせられた様子を見ることができました。しかし中には、「戦争はやってはいけない、ひどいものであるという認識、理解に留まるだけではもったいない。」という意見もありました。SDGs の目標 16『平和と公正をすべての人に』に当たる学習を事前に学習していたこともあり、未来ではどういう社会を作りたいのか、平和のない社会とは何なのかという議論も子どもたちと行うことができました。

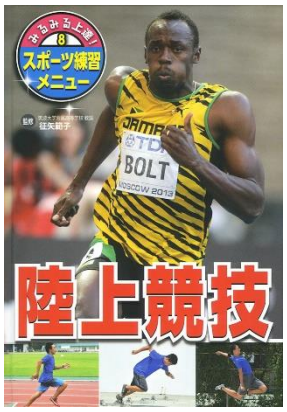
2 日目には、水プログラムに関する事業を行なっているビッグバイオという会社を訪問しました。この会社では、地球上に存在する微生物の力を利用し、水を綺麗にする取り組みを行っています。SDGs の目標 6『安全な水とトイレを世界中に』、目標 14 『海の豊かさを守ろう』、目標 15 『陸の豊かさも守ろう』に当たります。ここでは、企業理念や事業を行ったきっかけについてお話しして頂いたり、実際の研究施設の様子を見させて頂いたりしました。「水が汚いから、綺麗にした方がいい。」とは誰しもが思うことですが、それを事業として行い、社会貢献につなげる会社の想いに、子どもたちは心を打たれた様でした。「子どもだから何もできないではなく、小さな貢献の積み重ねが大切なのだ。」と再認識する学習となりました。

今後は、エキシビションを通して、それぞれのトピック、課題にアプローチしていきます。トピックや課題はそれぞれですが、今回の修学旅行で学んだことを活かし、「人のために、そして社会のために何ができるのか。」を子ども達なりに考えてもらいたいと思っています。情熱をもって自分の関心事に打ち込める時間は学生時代にしか無い貴重な時間です。その貴重な時間を有意義に過ごし、エキシビションが終わった後に「やってよかったな。」と思える子どもが沢山いるよう、私たち教員も精一杯サポートしていきたいと思います。

DIA LIBRARY からのおしらせ

「読書の秋」を楽しもう！

10月に入り、DIAではスポーツデイに向けて練習を始める子どもたちの姿が見られるようになりました。秋と言えば、「スポーツの秋」や「食欲の秋」、「実りの秋」など、たくさんの楽しみがある季節です。中でも、忘れてはいけないのが「読書の秋」！本を読むのに季節は関係ないと思う人もいるかもしれませんが、秋は夜が長く、過ごしやすい気候でもあるため、様々なことに集中しやすい季節と言われています。みなさんも、ぜひ秋の涼しい風を感じながら読書してみてはいかがでしょうか。今月は、「スポーツ」と「ハロウィン」をテーマにいくつかの本を紹介します。



「みるみる上達！スポーツ練習メニュー８陸上競技」

努力は人を裏切らない！スポーツデイに向けて、徒競走の練習をするのはいかが？陸上競技の練習メニューを多数紹介しており、写真で分かりやすく解説もしてくれます。正しいフォームで走ると、いつもよりもっと速く走れるかも！？

「ハロウィーンってなあに？」クリステル・デモワノー作

ちびっこ魔女のビビがおばあちゃんに聞く、初めてのハロウィーン。その由来から、ジャックのランタン伝説、かぼちゃのタルトの作り方までばっちり分かる絵本です。

「カボチャの絵本」

自分だけのカボチャを育ててみませんか。おいしい食べ方やおもしろ実験、かぼちゃの品種などが載っていて、見ているとカボチャを食べたくなること間違いなし！

10月の主な行事・予定

1	土	
2	日	
3	月	Buffer week
4	火	
5	水	クラブ活動 club activities
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日/ The day of celebrating sports
11	火	Unit 4 (week 1)
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	Unit 4 (week 2)
18	火	
19	水	委員会活動/ Student committees
20	木	Sports Day G123
21	金	Sports Day G456
22	土	
23	日	
24	月	Unit 4 (week 3) (Sports Day G123 - rain day)
25	火	(Sports Day G456 - rain day)
26	水	クラブ活動 club activities G6 Guest Teacher ②③
27	木	G6 Guest Teacher ③④
28	金	ハロウィーン/ Halloween
29	土	
30	日	
31	月	Unit 4 (week 4)

11月の主な行事・予定

11/5　きずな会 Kizuna Festival